

## 健康・医療新産業協議会における検討に向けて

令和3年6月9日

東北大学大学院医医学系研究科

教授 辻 一郎

## ○ 健康経営の効果の検証について

- ・ 大企業・大規模法人の4分の1が健康経営度調査に回答するなど（中小企業では未だ途上ですが）健康経営は、わが国全体に定着してきました。その意味で、量の拡充から質の向上へとフェーズを切り替える時期に来ているものと思っております。
- ・ 「質の向上」を図るには、先ずその前提として、健康経営の効果（生産性の向上、従業員におけるプレゼンティズムの減少、費用対効果など）を科学的に検証することが重要であります。
- ・ 健康経営の効果が明確に示されれば、国内の企業における「量の拡充」もさらに進むことが期待されます。また、健康経営という、日本ならではの素晴らしいシステムを国際発信・輸出するべきですが、その際は健康経営の効果に関するエビデンスが不可欠となります。
- ・ この点について、重点的に取組みを強化していただきたく、お願い申し上げます。

## ○ ヘルスケアサービスの品質確保について

- ・ 現在、さまざまなヘルスケアサービスが開発され、市場に参入しています。その状況を率直に申し上げますと、「玉石混交」という言葉に尽きます。大変魅力的で効果も期待できそうなものから専門家としては首を傾げたくなるものまで、さまざまなサービスが市場に出回っています。一方、一般の消費者が各サービスの質を吟味することは困難です。
- ・ 「アクションプラン2021」（案）では、「業界自主ガイドライン等の策定を支援」と提案されています。これには基本的に賛成いたしますが、業界だけで作成してよろしいものかという疑問がございます。ガイドラインの作成にあたっては、業界内の関係者に加えて、行政サイドの推薦する専門家（医師、保健師、管理栄養士、健康運動指導士など）を含めるなどの働きかけは可能でしょうか？
- ・ ヘルスケアサービスの品質確保を考える際には、サービス利用者の評価も重要な判断材料となります。医療保険者、事業所、自治体など、さまざまな主体がヘルスケアサービスを利用していますので、利用者の評価を集積する「情報システム」を作るのも有益かと存じます。
- ・ たとえばサービス利用者が、効果の大きさ・利用しやすさ・スタッフ対応・コストパフォーマンスなどを5点満点で評価し、クチコミや価格分布なども一緒に見える化してオープンにする

取組み（言わば、「食べログ」のヘルスケアサービス版！）はできないものでしょうか？ 質の確保や利用者フレンドリーなサービス提供を目指すうえでは、利用者からのフィードバックと公正な情報公開が欠かせないと思うからであります。

（以上）